
明日があるなど言わないで

柘榴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

明日があるなど言わないで

【Nコード】

N3547Q

【作者名】

柘榴

【あらすじ】

妻が死んだ、その後に残された疑問だけが俺を苦しめる。

さよつなら、世界。

（前書き）

最後に主人公が死にます。

苦手な方はプラうざバックでお戻りください・

彼は絶望の淵に立たされていた。

それは深い深い闇の中にいるような感覚だった。

もちろん、ここ三日食事、睡眠はおろか風呂にさえ入っていない。

下手をすれば蠅さえも飛び交いそうなジメジメ感がある。

髭も伸び、清潔さのカケラもない彼の名前は高坂晃。（たかざかあきひ）

年齢は26才、職業サラリーマンという至って普通の青年だった、三日前までは。

事の発端は、彼の婚約者である坂井美貴（さかいみき）の死である。

ただ、彼自身は彼女の死自体はあまりショックは受けていなかったのだ。

- 人はいずれ死ぬ。遅かれ早かれ、その命に終止符をつけなければいけない。

そんな現実的な考えを持っている人間だからである。

では、なぜ彼がこんなにも落ち込んでいるかというと今更知った事実である。

それは、彼女が伊達眼鏡だったと言うこと。

普通の人間はそんなことどうでも良いだろう。

だがしかし、二年間彼女と一緒にいて伊達眼鏡だと気付けなかった悲しみと何故伊達眼鏡を彼女がいつもかけていたのかへの疑問に押し潰されそうになっていた。

（なんで俺は気づかなかったんだ？）

側にいたはずなのに、彼女は目が悪いものだと思いきっていた。

（なんで美貴は俺に言ってくれなかったんだ？）

もんもんと考えこむ彼の家のインターホンが鳴り響いた。

彼が確認もせずガチャリと扉を開けてみると幼なじみの今優太こんゆうたの姿があった。

「よっ。大丈夫か？」

ずっと会社休んでるらしいじゃん。」

彼は幼なじみの言葉を無視して口を開いた。

「なあ、美貴はなんで伊達眼鏡だっていってくれなかったんだらう？」

「はっ？」

唐突な問いにどれほど困った事だろう、少しの沈黙が続き、とりあ

えず中入ろうという幼なじみの言葉で二人は部屋の中へと入った。

先に口を開いたのは幼なじみだった。

「で？ 昇。どうしたんだ？」

そう幼なじみがきくと彼はポツポツといきさつを話し出した。

「なんでだとおもう？」

その問いに呆れた様子で幼なじみが答えた。

「聞かれなかったからだろ。」

「っ！ かなんでそこに落ち込んでんだよ。」

幼なじみだから昔から可笑しいのは分かっていたが、こんな時までとは少し理解しがたかった様子だ。

「聞かれなかったから・・・そうか。」

でもなぜ伊達眼鏡をわざわざかけていたんだろう？

「眼鏡好きだからじゃね？」

まあ俺もわかんねえよ。

本人じゃねえんだし」

淡々と応える幼なじみを見て彼はひとつ決意をした。

「聞きに行こう。」

「は？」

がばりと立ち上がった彼をみて幼なじみがマヌケな声をだした。

「今から逝って聞いてくる」

窓に足をかけ、そう言った彼をとめるため幼なじみは腕を掴んだ。

なんせここは八階だ。

死ぬ可能性は十分にある。

「早まるなって晃！」

「気になり過ぎて生きる事を忘れそうなんだ。」

「だからって死ねば生き返られねえって！」

必死に叫ぶ幼なじみの手を振りほどき、彼は八階の窓から飛び降りた。

（後書き）

この作品はフィクションです。

実際の人物・団体には一切関係ありません。

処女作品。

自分でもよく判りません。

くだらない事で自殺する人間が増える世の中。

だったらこれくらいくだらない事で自殺したって変わりはないかと。

自殺してしまったら、理由なんて二の次。

自殺した事実しか先走らないのです。

理由がどれほどくだらなくても、大切でも、第三者からみればすべてくだらないのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3547q/>

明日があるなど言わないで

2011年1月28日11時26分発行